



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ユナイテッドアローズ

コード番号 7606 URL <http://www.united-arrows.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 重松 理

問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部部长

(氏名) 中澤 健夫

TEL 03-5785-6325

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日

平成23年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	45,361	9.6	4,108	54.6	4,152	61.8	2,246	788.0
23年3月期第2四半期	41,387	8.4	2,657	66.7	2,566	56.3	253	△59.1

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 2,189百万円 (982.7%) 23年3月期第2四半期 202百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
24年3月期第2四半期	71.14	70.71
23年3月期第2四半期	5.99	5.97

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
24年3月期第2四半期	47,612	16,719	35.1	529.06
23年3月期	45,716	15,103	33.0	478.39

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 16,719百万円 23年3月期 15,103百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
23年3月期	—	10.00	—	19.00	29.00
24年3月期	—	10.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	21.00	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	98,512	8.8	8,497	15.1	8,486	17.2	4,608	28.1	143.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	42,800,000 株	23年3月期	42,800,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	11,196,780 株	23年3月期	11,229,180 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	31,582,377 株	23年3月期2Q	42,221,958 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 【第2四半期連結累計期間】	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 継続企業の前提に関する注記	P. 11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 11
4. (参考) 四半期個別財務諸表	P. 12
(1) (参考) 四半期貸借対照表(個別)	P. 12
(2) (参考) 四半期損益計算書(個別)	P. 14
【第2四半期累計期間】(参考)(個別)	
5. 補足情報(・平成24年3月期第2四半期の個別売上概況について)	P. 15
(1) 全社売上高の状況	P. 15
(2) 業態別の売上状況	P. 15
(3) 小売既存店の状況	P. 15
(4) 品目別の売上状況	P. 15
(5) チャネル別の売上状況	P. 15
(6) 中長期的な会社の経営戦略と目標とする経営指標	P. 16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から9月30日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災直後の消費自粛傾向が緩和されたものの、電力供給の制約懸念による経済活動の停滞、厳しい雇用環境、円高の進行、原材料の高騰、欧州債務問題の深刻化、米国経済の減速などの影響により、先行き不透明な状況が継続しております。

衣料品小売業界におきましても、クールビズ関連衣料の売上が拡大するなどの明るい材料はあったものの、9月まで続いた残暑や強い台風の影響により秋冬商品の販売動向が遅れるなど、厳しい状況にありました。このような状況の下、当社グループにおきましては、「商品・販売・宣伝部門の連携の徹底強化と、メリハリの利いたコストコントロールにより、さらに収益性を高め、連結経常利益の過去最高益(平成18年3月期の連結経常利益7,639百万円)を更新する」を経営方針とし、構成する各会社および事業ごとの成長ステージに応じた施策および出店を実施することで、企業価値の向上に努めてまいりました。

株式会社ユニテッドアローズでは、2つの重点課題への取り組みを着実に推進いたしました。

商品・販売・宣伝部門の連携サイクルの強化

当社の競争力を生み出す基本的な業務である商品、販売、宣伝部門の連携サイクルの徹底強化と精度向上を図ることで売上高、収益向上につなげてまいりました。商品部門においては、販売部門から収集したお客様の声を活用し、品ぞろえの精度向上につなげる取り組みを強化いたしました。販売部門においては、店舗マネジメント力を向上させ販売力を強化したほか、陳列装飾の精度向上に取り組みました。宣伝部門においては、店頭の商品展開と連動した上で、各種制作物、ホームページ、ソーシャルメディアやマスメディアを戦略的に使い分け、入店客数の向上につなげました。

生産性の向上とメリハリの利いたコストコントロール

収益に応じたコストコントロールをきめ細かに行なうことにより、収益性を高めたほか、商品の消化施策の計画精度を高め、消化率を週次で適正管理することで、たな卸資産の効率改善につなげました。また、部署間の連携強化と日々の業務改善により生産性の向上に注力いたしました。

出退店では、ユニテッドアローズ業態：4店舗の出店、グリーンレーベル リラクシング業態：4店舗の出店、1店舗の退店、スモールビジネスユニット：4店舗の出店、1店舗の退店、アウトレット：1店舗の出店、1店舗の退店を実施し、当第2四半期末の小売店舗数は156店舗、アウトレットを含む総店舗数は171店舗となりました。

連結子会社の株式会社フィーゴでは、商品の納期遅れの影響があったものの、メールマガジンやポイントカードのキャンペーンなどの販促施策により、増収となりました。出退店では直営店が1店舗の退店、アウトレット店舗が1店舗の出店を実施し、当第2四半期末の小売店舗数は直営10店舗、アウトレットを含む総店舗数が11店舗となりました。

連結子会社の株式会社コーエン(決算月:1月)では、東日本大震災の影響で宮城県内の3店舗が4月下旬まで営業を休止しましたが、秋冬から春夏商品への切り替え時期を早め、商品鮮度を高めたほか、盛夏時期にシャツやカットなどの在庫を拡充して販売機会ロスを極小化したことで、他地区の店舗およびネット通販の売上高が好調に推移し、増収経常黒字化しました。出退店では2店舗の出店を実施し、当第2四半期末(平成23年7月末)の小売店舗数は36店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、主に単体の主力業態であるユニテッドアローズ業態やグリーンレーベル リラクシング業態を中心に、小売、ネット通販既存店の売上高が好調に推移し、45,361百万円(前年同期比9.6%増)となりました。売上総利益率につきましては、主に単体において、サンプル品などの商品廃棄が増加しましたが、ビジネスユニット計の値引きロスが減少したことにより、前年同期比0.4ポイント増の53.7%となりました。販売費及び一般管理費率につきましては、主に単体において、雑誌などへの広告出稿やカタログ制作など、積極的な販促施策を実施したことにより宣伝販促費は増加しましたが、コスト効率を高めたことにより、前年同期比2.3ポイント減の44.6%となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の営業利益は4,108百万円(前年同期比54.6%増)、経常利益は4,152百万円(前年同期比61.8%増)となり、平成18年3月期第2四半期累計期間の連結経常利益2,922百万円の最高益を更新しました。また、店舗の改装、移転などに伴う減損損失162百万円など合計193百万円を特別損失に計上しましたが、前年同期において、資産除去債務の会計基準の適用に伴い資産除去債務過年度償却費921百万円を特別損失に計上しているため、四半期純利益は2,246百万円(前年同期比788.0%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比較して1,848百万円(6.5%)増加の30,191百万円となりました。これは、現金及び預金が974百万円、受取手形及び売掛金が67百万円それぞれ減少した一方、商品が1,525百万円、未収入金が1,285百万円、繰延税金資産が26百万円それぞれ増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して47百万円(0.3%)増加の17,421百万円となりました。これは、出店等により建物及び構築物が146百万円、差入保証金が64百万円それぞれ増加した一方、有形固定資産その他が12百万円、無形固定資産が109百万円、投資その他の資産その他が42百万円それぞれ減少したことなどによります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比較して4,154百万円(15.1%)減少の23,330百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が2,068百万円、1年内返済予定の長期借入金が2,031百万円、未払法人税等が1,030百万円それぞれ増加した一方、短期借入金が8,800百万円、賞与引当金が142百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して4,433百万円(141.7%)増加の7,562百万円となりました。これは、長期借入金が4,306百万円増加したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して1,616百万円(10.7%)増加の16,719百万円となりました。これは、利益剰余金が四半期純利益により2,246百万円増加した一方、配当金の支払により599百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年9月12日に発表した平成24年3月期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,640	4,665
受取手形及び売掛金	257	190
商品	15,698	17,223
貯蔵品	169	181
未収入金	5,108	6,394
その他	1,509	1,575
貸倒引当金	40	38
流動資産合計	28,342	30,191
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,592	6,739
その他(純額)	1,596	1,583
有形固定資産合計	8,189	8,323
無形固定資産		
その他	1,885	1,776
無形固定資産合計	1,885	1,776
投資その他の資産		
差入保証金	6,224	6,289
その他	1,079	1,037
貸倒引当金	4	4
投資その他の資産合計	7,299	7,321
固定資産合計	17,373	17,421
資産合計	45,716	47,612
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,193	9,262
短期借入金	12,800	4,000
1年内返済予定の長期借入金	2,094	4,125
未払法人税等	600	1,630
賞与引当金	1,233	1,150
役員賞与引当金	60	-
その他	3,503	3,161
流動負債合計	27,484	23,330
固定負債		
長期借入金	1,238	5,544
役員退職慰労引当金	91	91
資産除去債務	1,791	1,881
その他	7	44

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
固定負債合計	3,128	7,562
負債合計	30,613	30,892
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,030	3,030
資本剰余金	4,095	4,095
利益剰余金	19,514	21,155
自己株式	11,537	11,504
株主資本合計	15,102	16,776
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	30
繰延ヘッジ損益	12	25
その他の包括利益累計額合計	0	56
純資産合計	15,103	16,719
負債純資産合計	45,716	47,612

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	41,387	45,361
売上原価	19,317	21,006
売上総利益	22,069	24,354
販売費及び一般管理費	19,411	20,246
営業利益	2,657	4,108
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	3
為替差益	22	33
仕入割引	18	19
その他	55	79
営業外収益合計	101	136
営業外費用		
支払利息	57	75
支払手数料	109	0
その他	26	17
営業外費用合計	192	93
経常利益	2,566	4,152
特別利益		
固定資産売却益	1	0
店舗閉鎖損失引当金戻入額	92	-
特別利益合計	94	0
特別損失		
固定資産除却損	54	24
減損損失	319	162
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	921	-
その他	4	6
特別損失合計	1,300	193
税金等調整前四半期純利益	1,360	3,958
法人税、住民税及び事業税	786	1,614
法人税等調整額	321	97
法人税等合計	1,107	1,711
少数株主損益調整前四半期純利益	253	2,246
四半期純利益	253	2,246

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	253	2,246
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	4	19
繰延ヘッジ損益	46	37
その他の包括利益合計	50	57
四半期包括利益	202	2,189
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	202	2,189
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,360	3,958
減価償却費	663	667
無形固定資産償却費	155	163
長期前払費用償却額	40	45
減損損失	319	162
のれん償却額	159	-
賞与引当金の増減額(は減少)	474	82
役員賞与引当金の増減額(は減少)	-	60
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	118	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	1
受取利息及び受取配当金	4	3
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	921	-
支払利息	57	75
有形固定資産除却損	5	7
有形固定資産売却損益(は益)	1	0
売上債権の増減額(は増加)	185	1,135
たな卸資産の増減額(は増加)	1,263	1,537
その他の流動資産の増減額(は増加)	156	143
仕入債務の増減額(は減少)	1,384	2,068
その他の流動負債の増減額(は減少)	309	343
その他の固定負債の増減額(は減少)	9	1
その他	0	-
小計	2,933	3,841
利息及び配当金の受取額	4	3
利息の支払額	58	74
法人税等の支払額	1,731	657
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,148	3,112
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	49	6
有形固定資産の取得による支出	806	735
有形固定資産の除却による支出	-	76
無形固定資産の取得による支出	98	90
長期前払費用の取得による支出	51	87
差入保証金の差入による支出	48	341
差入保証金の回収による収入	-	276
有形固定資産の売却による収入	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,054	1,058

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,400	8,800
長期借入れによる収入	-	8,000
長期借入金の返済による支出	1,088	1,662
自己株式の処分による収入	11	26
配当金の支払額	755	598
財務活動によるキャッシュ・フロー	432	3,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	338	980
現金及び現金同等物の期首残高	4,061	5,471
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,723	4,491

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
該当事項はありません。

4. (参考) 四半期個別財務諸表

(注) この四半期財務諸表(個別)は、四半期財務諸表等規則に基づき当社が任意で作成したものです。

(1) (参考) 四半期貸借対照表(個別)

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,874	3,203
受取手形及び売掛金	16	47
商品	14,895	16,413
貯蔵品	169	181
未収入金	4,797	6,025
その他	3,121	3,089
貸倒引当金	25	24
流動資産合計	26,850	28,937
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,038	6,222
その他(純額)	1,528	1,516
有形固定資産合計	7,567	7,739
無形固定資産	1,808	1,710
投資その他の資産		
差入保証金	5,743	5,774
その他	3,233	3,176
貸倒引当金	4	4
投資その他の資産合計	8,971	8,945
固定資産合計	18,347	18,395
資産合計	45,197	47,333

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,681	8,917
短期借入金	12,500	4,000
1年内返済予定の長期借入金	2,094	4,125
未払法人税等	500	1,529
賞与引当金	1,188	1,098
役員賞与引当金	60	
資産除去債務	76	21
その他	3,264	2,975
流動負債合計	26,365	22,668
固定負債		
長期借入金	1,238	5,544
役員退職慰労引当金	87	87
資産除去債務	1,604	1,687
その他	7	7
固定負債合計	2,937	7,326
負債合計	29,302	29,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,030	3,030
資本剰余金	4,095	4,095
利益剰余金	20,306	21,773
自己株式	11,537	11,504
株主資本合計	15,893	17,394
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11	30
繰延ヘッジ損益	12	25
評価・換算差額等合計	0	56
純資産合計	15,894	17,337
負債純資産合計	45,197	47,333

(2) (参考) 四半期損益計算書(個別)
【第2四半期累計期間】(参考)(個別)

	(単位:百万円)	
	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	85,090	42,369
売上原価	40,364	19,812
売上総利益	44,726	22,556
販売費及び一般管理費	37,599	18,757
営業利益	7,126	3,798
営業外収益		
受取利息	9	4
受取配当金	4	3
為替差益	24	25
関係会社業務受託料	62	11
その他	137	97
営業外収益合計	238	142
営業外費用		
支払利息	146	74
その他	157	16
営業外費用合計	304	91
経常利益	7,061	3,849
特別利益		
固定資産売却益	3	
移転補償金	19	
特別利益合計	23	
特別損失		
固定資産除却損	62	23
減損損失	388	159
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	870	
その他	27	6
特別損失合計	1,348	190
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,735	3,659
法人税、住民税及び事業税	1,682	1,522
法人税等調整額	1,132	63
法人税等合計	2,815	1,586
四半期(当期)純利益	2,919	2,073

5. 補足情報

・平成24年3月期第2四半期の個別売上概況について

前第2四半期:平成23年3月期第2四半期(自平成22年4月1日至平成22年9月30日 6ヶ月)

当第2四半期:平成24年3月期第2四半期(自平成23年4月1日至平成23年9月30日 6ヶ月)

(1) 全社売上高の状況 (単位:百万円、%)

	前第2四半期(A)	当第2四半期(B)	増減額(B) - (A)	増減率
全社売上高	38,843	42,369	3,526	9.1

(2) 業態別の売上状況 (単位:百万円、%)

	前第2四半期(A)	当第2四半期(B)	増減額(B) - (A)	増減率
U A業態	17,528	19,064	1,536	8.8
GLR業態	7,328	9,058	1,730	23.6
CH業態	2,223	2,936	713	32.1
S.B.U.およびUAラボ	6,259	5,718	540	8.6
ビジネスユニット計	33,339	36,778	3,439	10.3
その他	5,503	5,590	86	1.6
全社売上高	38,843	42,369	3,526	9.1

1. S.B.U. = Small Business Unit

2. 「ビジネスユニット計」に含まれる売上高は、小売、卸売、通販等であり、「その他」に含まれる売上高は、アウトレット等であります。

(3) 小売既存店の状況 (単位:%)

	売上高増減率	客数増減率	客単価増減率
U A業態	4.5	0.1	4.4
GLR業態	4.1	1.6	2.5
CH業態	31.1	16.7	12.3
S.B.U.およびUAラボ	1.3	1.0	2.3
小売合計	6.2	0.7	5.5

(4) 品目別の売上状況 (単位:百万円、%)

	前第2四半期(A)	当第2四半期(B)	増減額(B) - (A)	増減率
メンズ	12,048	13,500	1,452	12.1
ウイメンズ	16,129	18,337	2,208	13.7
シルバー&レザー	2,882	3,809	927	32.2
雑貨等	2,279	1,130	1,148	50.4
ビジネスユニット計	33,339	36,778	3,439	10.3
その他	5,503	5,590	86	1.6
全社売上高	38,843	42,369	3,526	9.1

(5) チャネル別の売上状況 (単位:百万円、%)

	前第2四半期(A)	当第2四半期(B)	増減額(B) - (A)	増減率
北海道・東北地区	1,287	1,486	199	15.5
関東(東京以外)地区	4,710	4,990	280	6.0
東京地区	13,473	14,678	1,205	8.9
甲信越・北陸・東海地区	2,530	2,754	224	8.9
関西地区	4,424	4,908	483	10.9
中国・四国・九州地区	2,707	3,124	417	15.4
小売合計	29,133	31,943	2,809	9.6
ネット通販	3,780	4,425	645	17.1
卸等	425	410	15	3.6
その他	5,503	5,590	86	1.6
全社売上高	38,843	42,369	3,526	9.1

(6) 中長期的な会社の経営戦略と目標とする経営指標

当社の基本事業戦略は、下記3要素から成り立っております。

新たな事業軸を横軸に展開することでマーケットの幅を広げる「多事業軸化戦略」

店舗数を制限しストアロイヤルティを高く保つ「店舗数制限戦略」

さらなる顧客価値の創造を目指す「顧客価値最大化戦略」

これは、既存の主力事業を軸に新たな事業軸を横軸に展開することで当社グループの対象マーケット規模および企業規模を高めるとともに、各事業に応じた適正な上限店舗数を設定することで、「マーケットの拡大」と「ストアロイヤルティの維持向上」の両立を図ります。また、新規顧客開拓を積極的に推進するとともに、お客様一人ひとりのニーズとウォンツに合わせたワン・トゥ・ワン・マーケティングを実施することにより、カスタマーロイヤルティの向上を図ります。

平成26年3月期に向けた中期経営目標

当社は、平成26年3月期に向けた中期経営目標として、「既存事業の徹底強化」「新チャネルへの展開」「海外への展開」「新ドメインへの進出」の推進により、「ナンバー1の高感度ファッション専門店グループ」の地位を確立し、その先の事業拡大の道筋を付けてまいります。

既存事業の徹底強化

引き続き既存事業の徹底強化が事業戦略の軸となります。小売・ネット通販既存店の継続強化とともに、成長けん引業態と位置付けた「ビューティ&ユース ユニテッドアローズ」「ユニテッドアローズ グリーン レーベル リラクシング」業態と「コーエン」につきましては、積極的な新規出店を行なうことで成長拡大を目指してまいります。

新チャネルへの展開

お客様との接点を積極的に拡大する新チャネルの開拓を推進します。

平成23年3月期には、空港内商業施設をターゲットとした新業態「ジ エアポート ストア ユニテッドアローズ」3店舗の出店を行いました。平成24年3月期下半期には、駅ナカ、高速道路のサービスエリアに向けた新業態をスタートする予定です。それぞれのチャネルにおける成功モデルを早期に確立し、今後の出店戦略に活かしてまいります。

百貨店への展開として、平成23年2月にユニテッドアローズ業態初のウィメンズ単独展開となる「ユニテッドアローズ 大丸神戸 ウィメンズストア」を出店いたしました。今後もマーケット特性に応じて柔軟に新しい店舗モデルを検討してまいります。

ライセンス事業につきましては、当社がこれまで培ってきたブランド・エクイティを活用し、他社との協業による新しい事業展開を行ってまいります。平成23年10月には、老舗文房具専門店「銀座・伊東屋」とのコラボレーションによる「イトーヤ ウィズ ユニテッドアローズ」(阪急メンズ トーキョー)がオープンしました。同店では、「ユニテッドアローズ」とライセンスメーカーの共同開発による服飾雑貨などの商品をコーナー展開しております。今後は、協業するライセンスメーカー・商品を拡充し、全国の主要百貨店での展開を図ってまいります。

海外への展開

海外への展開につきましては、すでに香港のセレクトショップにおける卸販売、シンガポールなどにおけるテストセールによるマーケティング活動を行っております。海外への本格的な進出の時期につきましては、世界経済とマーケットの動向を鑑みながら慎重に判断してまいります。

新ドメインへの進出

アライアンス、ライセンスなど他社との協業により、生活雑貨や家具などファッション以外の新しいドメインへの事業展開を検討してまいります。

これらの事業戦略の推進により、平成26年3月期の経営目標として、連結売上高1,100~1,200億円、同 経常利益105~115億円、同 ROE(株主資本当期純利益率)20%以上を目指してまいります。